

# 学校関係者評価委員会 報告書

<実施日：2025年3月27日>

学校法人横浜 YMCA

YMCA 健康福祉専門学校

## 2024 年度学校関係者評価委員会 報告書

2025 年 3 月 27 日（木）18：00～19：00

会場：5 階 502 教室

出席：委員 コッシュ石井美代子さん、佐久間志保子さん、玉城久子さん、児玉達也さん  
学校スタッフ 平岡守、大塚英彦、大西史浩、石島美紀、小西英範、内田智美

欠席：佐藤節子さん

### 1. 校長挨拶

YMCA 健康福祉専門学校 学校関係者評価報告について YMCA 健康福祉専門学校では、全ての教育内容や通常の業務が、運営母体となる YMCA 活動に基づき行われているかについて、現状を点検して、さらなる改善及び向上を図っていくことを目的に、2007 年度より全教職員による自己点検「YMCA 専門学校運営ガイドライン評価アンケート」を実施し、自らの立ち振舞いを振り返る機会としています。また、2013 年度より、卒業生や本校に関係の深い企業、福祉施設の方々を中心に、広くご意見を伺い、今後の教育活動や学校運営に反映させることを目的に、「学校関係者評価委員会」を発足し、定期的な意見交換・情報収集の場として運営しています。たくさんの貴重なご意見やご指導をいただき、改めて多くの方の意見を聞くことは、学校評価の重要性と、YMCA の運営する専門学校としての使命を再認識した次第です。

今後とも、より良い教育、より良い学校運営を目指し、教職員一同努力して参りますので、今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。

2025 年 3 月 27 日  
学校法人横浜 YMCA  
YMCA 健康福祉専門学校  
校長 平岡 守

### 2. 委員、学校スタッフ紹介

3. 2024 年度実績報告及び 2025 年度主要事項の目標 別途資料説明：大西

### 4. 意見交換

児玉さん：日本人学生の確保の工夫は、どのようにしていますか？留学生は、就職先との紐づけがある。魅力ある学校として

→ 高校ガイダンスを高校訪問しているが、多いと 3.4 人だが 1.2 人のときもあり、高校 3 年生へのアプローチだけでなく 1.2 年生にもアプローチとして考えている。介護や福祉を

知ってもらおうイメージづくりをしてもらえるゲームなどを展開している。学校だけでなく、施設の協力や厚労省との働きかけにも協力してもらおう。

私たちは、「ここに拘っています」「尊厳」「利用者の権利」を体感できるようにアプローチしている。

玉城さん：進路指導の課題として、留学生の在留資格認識の違いについては、どのようなことか？

→留学生在職内定した施設は、在留資格「介護」の前に在留資格「特定活動」があることを施設側の認識がわからないことがあり何度も説明した経緯がある。施設だけでなく留学生にもきちんと認識できるように説明していく。

玉城さん：実習記録は、施設側としては埋まっていればよいのでもいいと認識している。日本人と留学生との違いがあるが、留学生にはがんばってね。日本人はもう少しがんばろうとなり、差別になってはいけないため、両方に甘くなることがある。記録の評価の仕方にもある。実習態度がよければよいかと思っているが、それでよろしいでしょうか。

→実習記録を提出する前の段階で、内容よりも提出できない学生がいる。実習記録の提出できた学生には、学生にわかるように評価のコメントや学校へ伝えていただければと思います。実習期間の中でも1日目から記録指導をいただくことで徐々に記録内容が書くことができる成長がわかる。

玉城さん：毎日提出することだけでなく、まとめて提出できるようにすればよいのではないか。

→記録が苦手な学生がいるが、毎日提出することを継続していきたい。苦手であってもきちんと振り返りしながらかたちに残してもらいたい。

佐久間さん：出欠席について、欠席超過の学生に対して、課題で対応してくれと連絡をもらったが、書いてある内容と違うのは、学校としての意味付けはなにか。該当学生は、なんでも課題でよいのか。YMCAは課題でなんとかなると評判になるのではないか。2年課程で卒業させるよりも3年目で伸びる学生もいる。

学生募集では、和泉短期大学では高校1年生、中学生、小学生へと福祉の体験をPRに訪れている。入学時に学校選択のアンケートを実施していると小学生のときからも記載される。記録は、何度も書いて汚くなるのが嫌だという学生もいる。施設の理解を得たうえでPC記録を認めている。全員がPC操作ではないが、学生の特性や個別対応している。

→ 基準があるにも関わらずその基準に対応していないことに対してその通りです。必ずしもなんでも崩しているわけではないが学生の適性を鑑みて対応している。

→ 実習記録は、ICT活用を検討していく。記録が苦手は留学生だけでなく日本人も含まれている。

コッシュさん：①学生の年齢層は ②集中授業の欠席が多いのは何故か ③スクールカウンセラーの抵抗感はないか。

→①高校卒業、留学生は 20 歳程度、母国で大学卒業 24 歳位、職業訓練生は一定年齢層がいる。30.40.50 代、リタイア後の 70 代 が過去にも在籍していた。

②集中授業の設定が直近の日程で土曜日が多く、留学生は土曜日アルバイトを優先になっていたため、欠席が増えた経緯がある。

③抵抗感はある。日本人学生は、小学生時代からスクールカウンセラーが配置されているが、そもそも本音が言えない。困っていることを伝えることができない。困っていなくてもいえるように、ラインでのメッセージを導入して工夫していく。

留学生は、困っていることを表現することができるので、スクールカウンセラーへ繋げると整理されて問題解決できた。

5.その他

特になし

以上